



# 今、消えようとしている命があります

地球上には65億人以上の人間が生息しており、今なおその数を増やしています。そして同じ地球で、今、絶滅に向かっていている動物たちがいます。地球上からその姿を永遠に消してしまうということはどういうことなのでしょう。どうして絶滅していかなくてはならないのでしょうか。そこには、私たち人間の存在が大きく関係しています。



## 地球温暖化

温暖化の進行により北極の氷はどんどん解けており、氷上でアザラシを捕食するホッキョクグマはエサを捕る機会が減りました。子グマの生存率も減少し、2006年絶滅危惧種に指定されました。最近の研究では、このまま温暖化が進めば体温調節が出来ないカゲ類の約2割が太陽の下でエサを探すことが出来ず絶滅の危機にさらされるとい



**ホッキョクグマ**  
レッドリスト:VU 危急  
ワシントン条約:付属書II

## 森林破壊

木材を取ったり、建物や道路を作るために、人間は多くの木々を伐採し、森林を切り開いてきました。オランウータンやチンパンジーなどの樹上で生活する動物達や、アムールトラやマレーバクなどの森林地帯を生息地とする動物達は住処を追われ、多くの動物が絶滅の危機に瀕しています。



**ボルネオオランウータン**  
レッドリスト:EN 絶滅危機  
ワシントン条約:付属書I

## 毛皮や肉を目的とした乱獲

ユキヒョウやビルマニシキヘビなど、美しい毛皮や皮を自当てに人間に狩猟され、数を減らしてきた動物もいます。ナマケグマの胆嚢は薬になると信じられ乱獲されました。北海道でもなじみの深いタンチョウが数を減らしたのも、食用として多く狩猟されたことが原因の一つです。



**ユキヒョウ**  
レッドリスト:EN 絶滅危機  
ワシントン条約:付属書I

## 環境汚染や鉛中毒

生活排水や工場排水による水質汚染、自動車からの排出ガスや工場の煙などによる大気汚染、農薬などによる土壌汚染も動物たちを苦しめています。中国揚子江流域に生息するヨウスコウワニは開発による水質汚染によりその数を減らしてきました。また、狩猟による鉛の散弾を受けたシカや、散弾を食べた鳥をオオワシやオジロワシが食べることで鉛中毒を発生し死んでしまう事例もあります。



**ヨウスコウワニ**  
レッドリスト:CR 絶滅寸前  
ワシントン条約:付属書I

## ペットにするための密猟

絶滅の恐れがある動物はワシントン条約で国際的な取引が制限されています。けれど日本には、ペットとして販売するために、多くの動物たちが密猟・密輸され、高額で取引されています。円山動物園に在るスローロリスやホウシャガメなどの動物たちも、密輸され、ワシントン条約違反により空港で保護された個体です。



**スローロリス**  
レッドリスト:VU 危急  
ワシントン条約:付属書I

## 外来種による被害

本来生息していない動物(外来種)が持ち込まれ、本来そこに生息していた動物(在来種)が被害を受けることもあります。在来種の日本ザリガニは、外来種のウチダザリガニによる捕食や伝染病により絶滅危惧種となりました。また、ペットとして飼いきれなくなって捨てられたアライグマなどの外来種が生態系を乱しています。



**ニホンザリガニ**  
レッドリスト:VU 危急

# 命は君の手の中に

私たちの住む地球は沢山の命で出来ています。微生物であつたり、植物であつたり、昆虫であつたり。昆虫が花粉を運び、植物は果実を結びます。その果実を動物が食べ、フンはバクテリアにより分解されて豊かな土壌を作り、新たな植物を育てます。植物は酸素を生み出し、また花を咲かせます。全ての生き物は、手を繋ぐように他の生き物と支えあつて生きています。どれか一つが欠けてもいけません。そして私達人間もこの輪の中の一員です。けれどこれを壊してき

たのも私達人間なのです。

円山動物園には、この地球上で数を減らしてきた動物達が沢山います。動物園では絶滅に瀕した動物達の繁殖に取り組んでいます。どうか動物達を見て下さい。囚徒だけではなく、その生きる姿を見て動物達の置かれている環境を感じ取って下さい。園内の看板や、飼育員の話、動物園の森の中にもメッセージが散りばめられています。

そして自分に何が出来るのか考えてみて下さい。使っていない電気を消せば、ホッキョクグマが一頭助かるかもしれません。紙を一枚無駄にしなければ、オランウータンの森が守られるかもしれません。小さなことから良いのです。地球にいる65億人以上の人が力を合わせれば、大きな力になるのですから。それは動物たちだけではなく、私達人間を助ける力でもあるのです。君の手は地球を壊すことも、救うこともできるのです。

